

村半利活用検討会（令和5年度第4回）結果報告

日時 令和5年12月18日(月)16時00分～17時00分

場所 村半 大会議室

出席者 検討会メンバー7名、地域ラボ・高山 支援員 1名、事務局(総合政策課) 4名

内容

1 協議事項

(1) 利用状況等について

- ・令和5年10月、11月の利用状況や占用利用実績等について説明
- ・今後の占用受付について

(2) 令和5年11月の市内高校テスト期間の状況について

2 その他

地域ラボ・高山活動実績報告(2023年4月～2023年12月)

地域ラボ・高山 支援員 下垣内 将策 氏

<意見交換、質疑> メ:構成メンバー、地:地域ラボ・高山支援員、事:事務局

(1) 協議事項に対する意見等

メ: 自主学习で利用している高校生と、交流など騒ぎたい中学生・高校生の利用を両立しなければならぬと思うが、方針はあるのか。

事: 学習する学生は北蔵、交流する学生は中央蔵を利用いただくなど、できる範囲で住み分けを行っている。学習だけの施設ではなくいろんなことができる施設だと利用者には伝えており、施設の容量にも限りがある中で共有して使っていただく施設である。

メ: 住み分けができるのか気になった。利活用が進むと仕方のないことだとも思う。

(2) その他「地域ラボ・高山活動実績報告」に対する意見等

メ: 地域ラボ・高山の令和6年度の計画を教えてください。また、高校生の参加については難しいところがあると思うが、参加しやすい時期を事前に擦り合わせることでできると良いと思う。

地: 令和6年度の計画については、地域の方への訪問や面談を今年度に引き続き実施する。またイベントやセミナーの開催により、大学の情報を地域の方に届けることも行っていきたい。また、令和5年度の事業に新しくプラスして、地域課題の解決を進めていきたい。学生に参加してもらい、大学の先生と一緒にヒアリングや解決案を提案するということを行っていきたい。ゆくゆくは地域ラボ・高山単体で運営ができるように資金面の方も検討していく。

また、高校生の参加については是非助言をいただきたい。テストや探究学習、部活など高校生のスケジュールはバラバラで、高校生全員が参加できるという機会というのはほぼ無いことを今年の活動で痛感した。そのため、こういう生徒さんに来てほしいという属性を想定した企画を立て、企画の段階から学校に相談させていただきたい。

事:地域ラボが何をしているのか説明が難しい。わかりやすくなると良いと思う。

事:現場においても、高校生に対してシンプルな言語でわかりやすい説明ができると良いと思っている。人を集めることに行き詰まることもあると思うが、高校生にとってもメリットがあるものであればつなぐことが出来ると思うので、引き続き協力したい。

地:地域ラボは、「人材育成」と「地域課題の解決」を大きな目標としているが、具体化できていないところもある。今年度は最初の年だったので、いろいろと取り組みながら、これなら地域の方にリアクションをいただけそうといった、認知度の向上を含めて確認するような半年間だった。令和6年度は具体化できるよう進めていきたい。

事:地域の課題については、以前地域のコミュニティや担い手の確保について、大学で研究してもらいたいというご意見をいただいたことがあった。観光や自然といった分野の研究に注目が集まりがちだが、大学生にはコミュニティの部分も含めて研究していただけると良いと思う。

メ:地域の人といっても8万数千人の市民がいる中で、どの人を捉えるかで違ってくると思う。観光で人がたくさん来るにはどうしたら良いかという課題がある一方で、観光が大きくなればなるほど住む人や祭を支える人が少なくなるといった、いかにしてここに住み続けるかという課題もあると思う。地域というものをどう捉えていくのかという点に注目している。このあたりは、伝統的建造物群保存地区である古い町並と、祭などの文化財があるが、それらをいかに守っていくのか、守ったがゆえに人が来るのではないか、人が来るためにはどうしたら良いのか。そういった視点からも意見を聞いてほしいと思う。

地:現時点では不確定だが、課題解決のテーマの一つとして、来年度以降高山祭を中心とした担い手の確保などについて勉強したらどうかという話が出ている。今後、文化に焦点を当てていきたいと考えている。

メ:担い手をどう集めるかについては、実際祭りをやっている人にどんな人に来てほしいのかを聞いてほしい。外部の方が入ることで雰囲気が変わることもある。まちの人が求めている人材を探してほしい。

地:地域の方の目線を外さないようにしたい。

メ:様々なご意見があると思うが、継続してがんばってほしい。5年経って何となく終わったとならないよう、地に足がついた活動をするにはどうしたらよいか悩みながらがんばってほしい。

地:5年間国の補助をいただきながら活動していくが、ゆくゆくは自分たちでお金を生み出し自主事業で進めていくことができるようにしたい。地元の方の目線という点では、地域ラボ・高山の特任教授や支援員は、全員高山市出身の者である。地元の目線は外さずにいたい。

メ:地域の方は大学生などの若者の視点で新たな提案をしてほしいと期待しているが、そこに応えられる学生はそんなにいないと思っている。学生の強みとして、何もフィルターがない状態で話が聞けるということがある。等身大の声を拾うことを行ってもらうと良いと思う。地元の人だと言いつらいことが外部の人だと言えるといったことや、暗黙の了解で続けていることを何のためにやっているのかといったことを考えるきっかけになる。そこから地域の方たちで改めて風呂敷を広げて考えていくという機会を構築するには良い機会だと思う。

メ:はじめて行うことにはいろいろと言われるものだがめげずにやってほしい。村半もそうだと思うが地道な仕事はすぐに結果は出てこないと思う。教育も同じ。何を言われようと頑張ってほしい。

メ:村半側としても、地域ラボに協力いただくなど一緒にできることがあるのではないかと。

事:双方に利点があるようなことができれば良いと思う。

以上